瑞穂区　弥富学区	住民交流	健康・福祉	青少年育成	環境・美化
	防犯・交通安全	**防　災**	歴史・文化・芸術	その他

ネットワーク活動「学区はひとつの家族です」

【弥富学区】

■世帯数：5,131 世帯
■人　口：12,220 人
■面　積：1.529k ㎡
平成 24 年 4 月 1 日現在

1　活動・取り組みの内容

- 災害時に、「自分の身は自分で守る」ことはもちろん、住民同士が支えあう地域のコミュニティを活発化させ、近所同士のつながりという小さな力を、学区全体へ広げ大きな力にしていくため、「学区はひとつの家族です」をモットーに災害に強いまちづくりを進め、地域の防災力を向上させている。
- 防災セミナーの開催、防災マップの作成・見直し（年３回）、防災に関する住民の意見を聴くアンケート調査、避難所となるコミュニティセンターでの避難訓練の実施等の取り組みを行う。マップの見直しには年間約 180 人（約 60 人×3 回）の参加がある。

【住民への PR 方法】

民生委員とふれあい協力員・区政協力委員の有志により増やしていく

【アピールポイント】
１人だけ飛び抜けてできるようになるのではなく、多くの人が参加して誰でも指導することができるよう行っている。

2　きっかけ、背景

弥富学区は、閑静な住宅地となっており、地下鉄の駅の周辺にはマンションも増えてきている。また、東部は丘陵地となっているため坂が多くなっている。高齢者、子ども共に多い地域となっており、災害に備えてお互いに見守り支えあう地域を目指して平成７年にふれあいネットワーク活動を立ち上げ、助け合いの仕

組みづくりに地域住民が主体となって取り組んできた。「対象者名簿」、「個別支援の計画」を作成し住民同士の助け合いを明確にし、これにもとづいた訓練を継続して行うようになった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、女性団体・女性会　計 100 人以上

(2) 他団体との協力

各種団体、高校生

(3) 運営協力

運営協力には、１人でも多くの人に役員になってもらい、手伝いをお願いしている。区政協力委員を交代するときに、ふれあい協力員として残ってもらえるとよい。

4 実施のスケジュール

H7 年～	ふれあいネットワーク活動（見守り、支え合う地域を目指して、ひとり暮らしの高齢者や障害を持った方など支援が必要な人を支える活動）
▼	
H19 年～	ふれあいネットワーク活動を活かして、災害時に地域のみんなで助け合う仕組みの構築
▼	
現在	災害に強いまちづくりのための取り組みに多くの住民が参加し、活動を発展させている

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、交流の深まり。日常のゴミ出しなど、高齢者などの生活支援活動を行うようになった。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ること、活動の担い手の不足。ネットワーク活動に、ある程度の年齢までは集まるが、若い世代の担い手の確保が課題。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課題。担い手の世代交代をしたくても、50～60 歳代の人はまだまだボランティアに関われないのが実態。

(4) メッセージ・アドバイス

学区全体が横のつながりを持つことが重要です。